

ユーザーズ・マニュアル

_MINILAB 3 & MINILAB 37

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

Kevin Molcard

開発

Nicolas Dubois (lead)

Aurore Baud

Jérôme Blanc

Valentin Foare

Florian Rameau (lead)

Loïc Baum

Yannick Dannel

Thibault Senac

Farès Mezdour (lead)

Timothée Béhéty

Antonio Eiras

品質保証

Thomas Barbier

Emilie Jacuszin

Aurélien Mortha

マニュアル

Sven Bornemark (writer)

Jimmy Michon

Holger Steinbrink (ドイツ語)

Ana Artalejo (スペイン語)

Stephen Fortner (writer)

Félicie Khenkeo

Minoru Koike (日本語)

© ARTURIA SA – 2022 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルに記載の情報は、本製品の発売時点の仕様のもので、本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。

本製品の仕様は、改良等のため予告なく変更することがあります。

本マニュアルに記載されているソフトウェアは、使用許諾契約書または秘密保持契約書に基づき提供されています。ソフトウェアの使用許諾契約には、その合法的な仕様に関する条件が規定されています。

本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Product version: 1.0

Revision date: 8 July 2026

Arturia MiniLab をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、DAW ソフトウェアやプラグインの操作に便利なフル装備の MIDI コントローラー、Arturia **MiniLab 3** と **MiniLab 37** の機能や操作方法をご紹介します。スタジオでもツアー先でも、あるいはホームスタジオでも、MiniLab シリーズが欠かせないツールとなることを確信しております。

2タイプの MiniLab

MiniLab 3 と MiniLab 37 は、本体サイズや鍵盤数以外の機能はほぼ同一です。

- MiniLab 3 は25鍵のペロシティ対応スリムキー鍵盤を装備し、MiniLab 37 はその37鍵バージョンです。
- パッドのレイアウトが異なり、MiniLab 3 では8個のパッドが1列に並んでいますが、MiniLab 37 では4個のパッドが2列に並んでいます。

2機種間でわずかな違いがある場合は、本マニュアルでご紹介します。

パッケージ内容

MiniLab 3、MiniLab 37 のパッケージ内容は、次の通りです：

- MiniLab 3 または MiniLab 37 本体 (1台)。本体底部にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されています。この2つは MiniLab の製品登録時に必要です。
- USB-C → USB-A ケーブル (1本)
- クイックスタートガイド

Arturia MiniLab には、クラシックなシンセやキーボードのサウンドを満載したソフトウェア・インストールメントの Arturia **Analog Lab** が付属されています。

また、本製品には驚くほど充実した機能を備えたレコーディング/シーケンス・アプリケーションである **Ableton Live Lite** の無料インストール権が含まれています。ライセンス番号は、Arturia ウェブサイトで MiniLab を製品登録された際に提供されます。その後、[ableton.com/live-lite](https://www.ableton.com/live-lite) からインストールファイルをダウンロードできます。

できるだけ早めに MiniLab の製品登録をお願いいたします！ 製品登録をされますと、次のようなメリットがあります：

- Arturia Analog Lab を入手できます。
- Ableton Live Lite のライセンスキーを入手できます。インストールファイルは、[ableton.com/live-lite](https://www.ableton.com/live-lite) からダウンロードできます。
- Native Instrument Komplete Select を入手できます。
- Melodics のサブスクリプションを入手できます。
- Loopcloud のサブスクリプションを入手できます。

MIDI Control Center

MIDI Control Center は、MiniLab の各種設定やファームウェアアップデートを行えるアプリケーションです。また、各種設定の保存やリロードもこのアプリケーションで行えます。

MIDI Control Center は、[Arturia ダウンロード & マニュアル](#)から無償でダウンロードできます。MiniLab のファームウェアアップデートや各種設定の変更にこのアプリケーションが必要となりますので、ぜひインストールしてください。

Arturia Software Center (ASC)

Arturia Software Center は、お持ちの Arturia 製品のすべてのライセンスやダウンロード、アップデートをワンストップで行える、Arturia アカウントのリモートクライアントです。

インストールがまだでしたら、こちらのウェブサイトから入手できます：[Arturia ダウンロード & マニュアル](#)

Arturia Software Center はページのトップ付近にあります。お使いのシステム (Windows または macOS) に合ったインストーラーをダウンロードしてください。

インストール後に次の作業をしてください：

- Arturia Software Center を開きます。
- Arturia Software Center の画面から、お持ちの Arturia アカウントでログインします。
- **My Products** セクションまで下へスクロールします。
- ご使用になりたいソフトウェア名 (今回の場合は Analog Lab Intro) の横にある **Activate** ボタンをクリックします。

これで準備完了です！

あなたのためにこのマニュアルを

MiniLab は使いやすく設計されていますので、すぐに使いこなすことができるかと思いますが、たとえあなたが経験豊富なヘビーユーザーだったとしても、本機の性能をフルに発揮できる便利な使いこなしのテクニックの数々を記載している本マニュアルをぜひお読みください。また、本機の製品登録時には、操作方法を思い出すのに便利な **MiniLab チートシート** もダウンロードできますのでぜひご利用ください。

MiniLab が強力なツールとなることを確信しておりますし、そのポテンシャルを最大限にご活用いただければと思います。

楽しい音楽制作を！

The Arturia team

使用上のご注意

重要：

本機とそのソフトウェアは、アンブやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、鳥海障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による誤った操作から発生する問題に対するサポートは保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、お買い上げの販売店とご相談の上、サポートを依頼されることをお勧めします。

注意事項としては以下のものを含みますが、これらに限定されるものではありません：

1. 取扱説明書をよく読みになり、理解してください。
2. 本機に表示されている指示に従ってください。
3. 本機のお手入れの際は、まず電源や USB 等すべてのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれら準じた水の近くや多湿な場所で使用しないでください。
5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
9. 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てを行うと感電や別の故障の原因になる場合があります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 本機を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。

目次

1. MiniLab へようこそ.....	2
1.1. 2タイプの MiniLab.....	3
1.2. MiniLab とは？.....	3
1.3. MiniLab 主な特長.....	4
2. インストールする.....	5
3. ハードウェアの概要.....	6
3.1. フロントパネル.....	6
3.2. リアパネル.....	7
3.3. 設定値などの表示.....	8
4. MiniLab のオペレーション.....	9
4.1. Shift Functions - シフト機能.....	9
4.2. Octave Up/Down and Transpose - オクターブシフトとトランスポーズ.....	10
4.3. Touch Strips - タッチストリップ.....	10
4.4. Pads - パッド.....	11
4.4.1. もう1つの機能.....	11
4.4.2. パッドとプログラムの選択.....	11
4.5. Arpeggiator - アルペジエーター.....	12
4.5.1. アルペジエーターのオン/オフ.....	12
4.5.2. アルペジオ・エディットモードに入る.....	13
4.5.3. アルペジエーターのエディット・メインエンコーダー法.....	13
4.5.4. アルペジエーターのエディット・クイックアクセス法.....	14
4.5.5. アルペジエーターのパラメーター.....	15
4.6. Tap Tempo - タップテンポ.....	18
4.7. ホールドモード.....	18
4.8. Chord Mode - コードモード.....	19
4.8.1. コードを作成する.....	19
4.8.2. アルペジエーターとコードモード、ホールドモードを併用する.....	20
4.9. ヴェガスモード.....	20
4.10. ファクトリーリセット.....	20
5. MiniLab and Analog Lab.....	21
5.1. 重要なポイント - すべては流動的なのです.....	21
5.2. オーディオと MIDI の設定.....	22
5.2.1. Analog Lab MIDI Settings - Analog Lab の MIDI 設定.....	23
5.3. プリセットのブラウジング.....	24
5.3.1. タイプ別にブラウジングする.....	25
5.4. ノブとフェーダー.....	25
5.4.1. ノブ 1-4.....	26
5.4.2. ノブ 5-8.....	27
5.4.3. フェーダー.....	26
5.4.4. パッド.....	27
6. DAW Control.....	29
6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW.....	29
6.1.1. トランスポートコントロール.....	28
6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする.....	30
6.3. Analog Lab モード.....	31
7. 規制関連情報.....	30
7.1. アメリカ合衆国.....	32
7.2. カナダ.....	32
7.3. オーストラリア.....	32
8. ソフトウェア・ライセンス契約.....	32

1. MINILAB へようこそ

1.1. 2タイプの MiniLab

MiniLab 3 と MiniLab 37 は、本体サイズやパネルレイアウト、鍵盤数以外の機能はほぼ同一です。

- MiniLab 3 は25鍵のペロシティ対応スリムキー鍵盤を採用し、MiniLab 37 はその37鍵バージョンです。
- パッドのレイアウトが異なり、MiniLab 3 では8個のパッドが1列に並んでいますが、MiniLab 37 では4個のパッドが2列に並んでいます。



2機種間でわずかな違いがある場合は、本マニュアルでご紹介します。

1.2. MiniLab とは？



MiniLab はコンパクトな MIDI キーボードコントローラーです。見た目は小さいのですが侮れません — より大きくて高価なキーボードコントローラーでよく見られるような機能を数多く内蔵しています。ペロシティ対応のスリムキー鍵盤と、ペロシティ だけでなく アフタータッチも対応の8個のバックライト付きパフォーマンスパッドを装備しています。

また、先代の MiniLab MkII からユーザーインターフェイスを見直し、さらに拡張しました。8つのエンコーダーノブに4つのフェーダーが加わり、選択ボタンを兼ねたクリッカブルのメインエンコーダーと高輝度 OLED ディスプレイも新しく装備されました。

デフォルト状態では、MiniLab は Arturia の Analog Lab ソフトウェアに完全対応しており、マウスを使わずにプリセットの選択やパラメーターのエディットが行えます。

MiniLab はまた、Ableton Live、Apple Logic Pro、Bitwig Studio、Image-Line FL Studio、Reason Studios、Steinberg Cubase といった主要 DAW を自動で認識してコントロールすることができます (一部の DAW には Mackie Control Universal (MCU) プロトコル経由で対応しています)。MiniLab のパッドで DAW のトランスポートを、ノブでプラグインのパラメーターを、フェーダーでトラックやセンドのボリュームやパンをコントロールすることができます。

さらに MiniLab はイノベティブなピッチ/モジュレーション・タッチストリップやアルペジエーターを内蔵し、シンセサイザーらしい演奏も十分に行えます。

Analog Lab Intro に加え、MiniLab には革新的なクリップベースの音楽制作とパフォーマンスができる DAW の入門版ながらも極力な **Ableton Live Lite** のライセンスも付属しています。MiniLab のパッドでクリップのトリガーやノブでプラグインの調整などさまざまなコントロールができます。

その他にも MiniLab オーナーの方は、以下のソフトウェアやサービスもご利用になれます：

- **Native Instruments Komplete Select**：広大なサウンドライブラリーと制作ツール
- **Melodics**：演奏やパフォーマンス、音楽制作に関するレッスンやヒントが満載
- **Loopcloud**：膨大なロイヤルティフリーのサンプルやドラムループなど

それだけでなく、Arturia のフリーウェア **MIDI Control Center** で MiniLab の各種フィジカルコントロール (ノブ等) とパラメーターのマッピングを行い、自分だけのカスタム設定を作成することができ、その設定セットを保存して MiniLab 本体から呼び出して使用することができます。

例えば、別の MIDI チャンネルでオリジナルスケールのベースをパッドで演奏しつつ、キーボードでソロやコードを演奏することも簡単に行えます！



! Arturia ウェブサイトからダウンロードできる **MIDI Control Center** の詳細につきましては、MIDI Control Center のマニュアルをご覧ください。

移動の多いミュージシャンや、狭い DJ ブースで演奏しなくてはならないラップトップベースのパフォーマー、デスクトップのスペースが限られたホームスタジオ・クリエイター、あるいは私たちも想像し得ないサウンドエクスプローラーの多くの方々にとって、コンパクトかつ最強の MIDI コントローラー、それが MiniLab なのです。

1.3. MiniLab 主な特長

- ペロシティ対応のスリムキー鍵盤を採用した25鍵モデルの MiniLab 3 と、37鍵の MiniLab 37。
- ペロシティ/プレッシャー対応の RGB パッドを8個装備。
- 2つのパッドバンクで合計16個分のパッドとして使用可能。
- 画面移動などさまざまな操作に便利な、多角形に面取りされたクリッカブル・メインエンコーダーを装備。
- 光量の多い明るい環境下でも見やすいハイコントラスト OLED ディスプレイを搭載。
- 8つのエンコーダーノブを装備。
- 4本のフェーダーを装備。
- ピッチベンドやモジュレーションに便利なロープロファイルのタッチストリップを装備。
- 数多くの機能にアクセスできる Shift ボタンを装備。
- ハンズフリー (足もフリー) なサステインができる Hold ボタンを装備。
- オクターブ単位と半音単位のトランスポーズが可能。
- クラシックなシンセスタイルのフル装備のアルペジエーターを内蔵。
- コードをメモリーしてワンフィンガーで演奏できるコードモードを内蔵。
- USB-C バスパワーに対応し、非常に効率的。iPad からの給電も可能。
- MIDI 信号は USB-C ポートからも5ピン MIDI アウトからも送信可能。
- サステインペダルやフットスイッチ、エクスプレッションペダルを接続できる 6.3mm TRS インプット端子を装備。
- 豊富な付属ソフトウェア : Arturia Analog Lab Intro、Ableton Live Lite、Native Instruments Komplete Select に加え、Melodics と Loopcloud のサブスクリプションも付属。
- USB-C → USB-A ケーブルを付属。

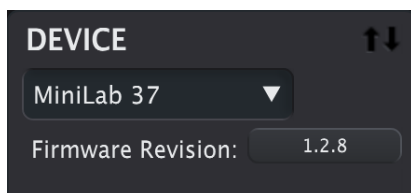
2. インストールする

MiniLab を購入し、製品登録を済ませた後に最初にすることは、ファームウェアのアップデートです。Arturia では、新機能の追加や動作向上などのファームウェアアップデートを随時行っています。

アップデートをするには、事前に MIDI Control Center (MCC) をダウンロードし、インストールする必要があります。MCC は、Arturia のハードウェア製品のために設計された強力なソフトウェアで、Arturia ウェブサイトの[ダウンロード & マニュアルページ](#)からダウンロードできます。

MCC をインストールしましたら、以下の手順で MiniLab のファームウェアをアップデートします：

1. MiniLab の製品ページの「リソース」タブ、または[ダウンロード & マニュアル](#)にアクセスし、「MiniLab 3」で検索すると最新のファームウェアをダウンロードできます。
2. MIDI Control Center を開きます。
3. MIDI Control Center の Device のところで MiniLab 3、または MiniLab 37 が選択されていることをご確認ください。ファームウェアのバージョンが表示されているボックス部分をクリックします：



1. 表示されるダイアログボックスにある「Upgrade」をクリックし、ファームウェアファイルを保存しているコンピュータ内の場所を指定します。このとき、4つのパッドがブルーに順番に点灯します。
2. 画面に表示される指示に従って作業を進めます。MiniLab へのファームウェアのロードが完了すると、MiniLab が再起動して使用できる状態になります。

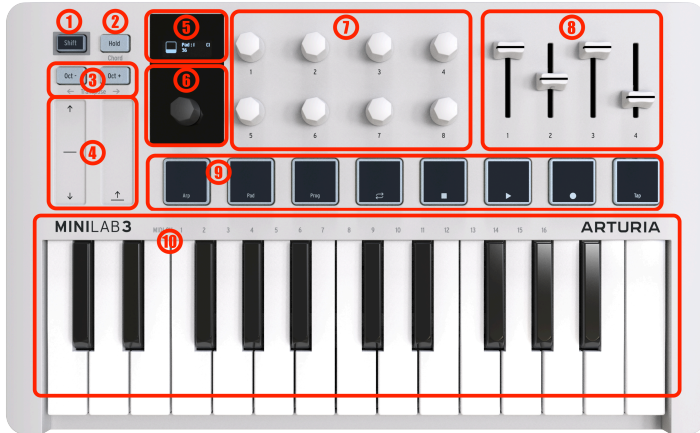
これで MiniLab を使用して Arturia [Analog Lab](#) など色々なバーチャル・インストゥルメントをコントロールすることができます。

MiniLab での MCC の使い方などの詳細につきましては、Arturia ウェブサイトの[ダウンロード & マニュアルページ](#)の MiniLab セクションにある専用マニュアルをご覧ください。

3. ハードウェアの概要

3.1. フロントパネル

MiniLab 3、MiniLab 37 のフロントパネルにあるコントロール類は以下の通りです。



#	名称	内容
1.	Shift ボタン	シフト機能 [p.9] にアクセスできます。
2.	Hold ボタン	オンになるとキーボード (パッドは対応していません) で弾いた音が長く伸びます。
3.	Octave ボタン [p.10]	キーボードで発音する音域をオクターブ単位で上下に移動します。
4.	タッチストリップ [p.10]	ピッチベンドやモジュレーション「ホイール」として使用できるロープロファイルのコントローラーです。
5.	OLED ディスプレイ	パラメーター名やその数値、MiniLab の各種機能の状態などを表示します。
6.	メインエンコーダー	Analog Lab のプリセット選択や、 DAW [p.29] の機能の実行などを行います。このエンコーダーは、クリックابلで選択ボタンとしても機能します。
7.	エンコーダーノブ	インストゥルメントのパラメーターなど、ソフトウェアのパラメーター調整に使用します。
8.	フェーダー	インストゥルメントのパラメーターなど、ソフトウェアのパラメーター調整に使用します。
9.	パッド [p.11]	フィンガードラムや MIDI ノートの発音、MiniLab の各種機能へのアクセス、DAW のトランスポート・コントロールなどが行えます。ペロシティとプレッシャーに対応しています。
10.	MIDI キーボード	MiniLab 3 は25鍵、MiniLab 37 は37鍵のペロシティ対応スリムキー鍵盤です。MIDI Control Center でペロシティカーブを調整できます。

3.2. リアパネル

MiniLab 3 / MiniLab 37 のリアパネルの接続端子は、次の通りです。



#	名称	内容
1.	ケンジントンロック	ラップトップ用の一般的なケンジントンロックに対応しており、盗難防止に利用できます。
2.	MIDI アウト	5ピン DIN コネクターの MIDI アウトでハードウェアの MIDI 音源モジュールなどを接続してコントロールできます。この端子は、MIDI スルーとしても使用できます。
3.	コントロールペダル・インプット	6.3mm TRS 仕様の端子です。サステインペダルやフットスイッチ、コンティニューアス・コントロールローラー (エクスプレッションペダル) を接続できます。
4.	USB-C ポート	コンピュータや外部機器と接続して MiniLab 本体への電源供給やデータ通信を行います。

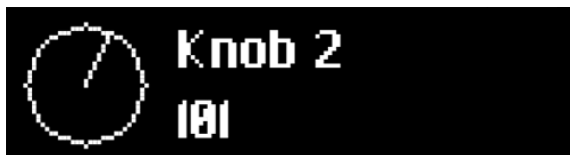
i ! MiniLab 37 では、MIDI アウトとペダル端子の配置が MiniLab 3 とは逆になっています。

i ! **ベロシティ対応**：MiniLab の MIDI キーボードとパッドの両方は、強く弾く (叩く) と音量が大きくなるというように、操作する強度に反応します。

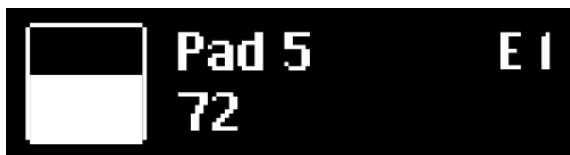
i ! **プレッシャー対応**：パッドを押してからさらに押し込むと、プレッシャーデータを送信してフィルターやボリューム変化などさまざまなモジュレーションを行えます。別名**アフタータッチ**とも言われています。

3.3. 設定値などの表示

デフォルト状態では、コントロール類に触れるとそのグラフィックをメインの OLED ディスプレイに表示し、コントロール類を操作するとその設定値も表示します。例えば、ノブを操作すると下図のように表示します：



パッドを叩くと、最初にそのときのベロシティ値を表示します。その後パッドを押し込むと、プレッシャーの値を表示します。



4. MINILAB のオペレーション

4.1. Shift Functions - シフト機能

Shift ボタンを押しながら特定のコントロール類を操作したり、パッドのいずれかを押すと、それ本来の機能とは別の機能を実行します。以下の表は、そうしたシフト機能をまとめたものです。各シフト機能の詳細は、それぞれのセクションでご紹介します。

コントロール	シフト機能
Hold ボタン	コードモード [p.19] のオン/オフを切り替えます。Shift ボタンを押しながら Hold ボタンを長押しすると、コード作成モードに入ります。
Octave Shift ボタン	キーボードを半音単位で上下にトランスポートします。
メインエンコーダー	使用するソフトウェアによって機能が変わります。
パッド 1	アルベジエイター [p.12] のオン/オフを切り替えます。Shift ボタンを押しながらパッド1を長押しすると、アルベジエディットモードに入ります。
パッド 2	パッドのバンク A と B を切り替えます。
パッド 3	MiniLab の動作モードを Arturia インストゥルメント・コントロールモードと DAW コントロール [p.29] モードのいずれかに切替えます。ここから、作成したユーザープログラムを切り替えることもできます。
パッド 4-7	DAW のトランスポートコントロール (ループモードのオン/オフ、停止、再生、録音) が行えます。
パッド 8	タップテンポ [p.18] の入力ができます。
キーボード	最低オクターブの F からその上のオクターブの G# の各キーで MIDI 送信チャンネルの 1-16 を選択できます。

4.2. Octave Up/Down and Transpose - オクターブシフトとトランスポーズ



キーボードで発音する音域をオクターブ単位で移動させるには、**Oct+** か **Oct-** ボタンを押します。最大で4オクターブ下、4オクターブ上まで移動できます。オクターブ単位で移動 (トランスポーズ) しているときは、ボタンが白く点灯します。

キーボードを半音単位でトランスポーズさせるには、**Shift** ボタンを押しながら **Oct+** または **Oct-** ボタンのどちらかを押します。半音単位でトランスポーズしているときは、ボタンがブルーに点灯します。

オクターブ単位と半音単位のトランスポーズを両方とも使用しているときは、ボタンが白とブルーに点滅します。

どちらのトランスポーズでも、その操作が OLED ディスプレイに表示されます。なお、トランスポーズはキーボードにのみ適用され、パッドには適用されません。パッドからは MIDI ノートナンバーを送信できますが、そのノートナンバーは MIDI Control Center で設定できます。



! Oct+ と Oct- ボタンを同時に押すと、オクターブシフトやトランスポーズがリセットされます。

4.3. Touch Strips - タッチストリップ



左側のピッチベンド・ストリップは、スプリング式のピッチベンドホイールと同様に機能します。指をストリップから放すと、自動的にセンター位置に戻ります。ベンドレンジ (ピッチベンドの幅) は、MIDI Control Center で設定できます (別マニュアルをご覧ください)。MiniLab やその他の Arturia コントローラーのほぼすべてのフィジカルコントロール類の機能は、MIDI Control Center で設定できます。

右側のモジュレーション・ストリップに触れて上にスライドすると、モジュレーションが深くなっていきます。シンセのモジュレーションホイールと同様、指を放してもその位置に留まり、ゼロに戻すには手動で戻す必要があります。

デフォルト設定では、モジュレーション・ストリップからは MIDI CC#1 (モジュレーションのコントロールナンバー) を送信しますが、MIDI Control Center で変更することもできます。

この2つのストリップの操作状況は、OLED ディスプレイに反映されます。

4.4. Pads - パッド



ベロシティ/プレッシャー対応の8個のパッドには、色々な機能があります。デフォルト設定では、MIDI ノートをチャンネル10で送信します。チャンネル10は主に、DAW やマルチティンバー・シンセサイザーのドラムに使用しています。

4.4.1. もう1つの機能

Shift ボタンを押しながらパッドを押すと別の機能が動作します。そのときの最も一般的な機能は、上述のシフト機能 [p.9] の表でご紹介しています。例えば、Shift + パッド 1 でアルペジエーターのオン/オフ切り替えなど、色々な機能があります。

Shift ボタンを押すと、パッド 1-3 がブルーに点灯します。パッド 4-7 は DAW のトランスポート機能に応じて点灯します：ループモードはアンバー、停止は白、再生はグリーン、録音は赤で点灯します。



Shift ボタンを押しながらパッド 2 を押すとパッドのバンク A と B を切り替えます。バンク B では別の MIDI ノートナンバーをチャンネル10で送信します。デフォルト設定のノートナンバーは以下の表の通りです (MIDI Control Center で変更できます)：

パッドバンク	1	2	3	4	5	6	7	8
A	36 (C1)	37 (C#1)	38 (D1)	39 (D#1)	40 (E1)	41 (F1)	42 (F#1)	43 (G1)
B	44 (G#1)	45 (A1)	46 (A#1)	47 (B1)	48 (C2)	49 (C#2)	50 (D2)	51 (D#2)

4.4.2. パッドとプログラムの選択

MiniLab には動作モードが複数あります。ARTURIA モードと DAW モードのほかに、ご自身で作成できるユーザープログラムを5つメモリーできます。**Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押して動作モードを切り替えます。

- **ARTURIA モード**：Analog Lab が開いているときに自動的に認識します。MiniLab のすべてのコントロール類が Analog Lab の各種機能に自動的にマッピングされます。
- **DAW モード**：DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) ソフトウェアを操作するときに使用します。対応 DAW をお使いの場合はコントロール類が DAW の各種機能に自動的にマッピングされます。それ以外の DAW をお使いの場合は、トランスポートコントロールのみが動作します。
- **ユーザープリセット**：MiniLab は、最大5個のユーザープログラム (MIDI Control Center で作成したカスタムマッピングのセット) をメモリーできます。各ユーザープリセットのオン/オフは、MIDI Control Center の Device Settings (デバイス・セッティング) で切り替えられます。詳細はチャプター6でご紹介しますが、ここでは **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すと、ARTURIA モード、DAW モード、「オン」になっているユーザープリセットが順番に切り替わるということを覚えておいてください。

4.5. Arpeggiator - アルペジエーター

MiniLab には、クラシックなシンセに搭載されいたような、楽しくてフレキシブルなアルペジエーターを内蔵しており、押さえたコードを基に色々なパターンを演奏することができます。

アルペジエーターは多くのシンセサイザーに搭載されており、キーボードで押さえたコードをアルペジオに変換する機能です。アルペジエーターには一般的に、スピードやレンジ (オクターブ)、モード (アップやダウン、アップ/ダウンなどのパターン) といったパラメーターがあり、ホールド (キーボードから手を放しても演奏がそのまま続く) 機能もあります。

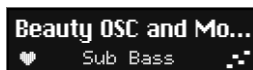
アルペジエーターによる演奏情報は、MIDI データとして USB-C ポートや5ピンの MIDI アウトから送信されます (どちらの端子から受信するかは、ホストソフトウェア (DAW) の MIDI 設定で選択します)。

4.5.1. アルペジエーターのオン/オフ

アルペジエーターのオン/オフを切り替えるには、**Shift** ボタンを押しながらパッド 1 を押します。このとき、MiniLab のディスプレイには下図のようなメッセージが短時間表示されます：



アルペジエーターがオンになると、ディスプレイ (下図の例では Analog Lab のプリセット名が表示されています) の右下に4つのドットの小さなアイコンが表示されます：



！アルペジエーターは、キーボードを弾いたときにのみ動作します。パッドからは動作しません。



！アルペジエーターのオン/オフをチェックするには、Shift ボタンを押します。このとき、Arp パッド (パッド 1) が明るいブルーで点灯したときはオンです。暗いブルーで点灯したときはオフです。



！アルペジエーターがオンのときでも、パッドで音をトリガーさせることができます。



！アルペジエーターのエディットモードに入っているときは、アルペジエーターのスタート/ストップをエンコーダーノブ 1 またはメインエンコーダーでコントロールできます。ディスプレイではその操作に応じてオフからオン、またはその逆にそのときの状態を表示します。

4.5.2. アルペジオ・エディットモードに入る

Shift ボタンを押しながら Arp パッドを **1秒間** 長押しすると、アルペジオ・エディットモードに入ります。

Shift ボタンを押しながら Arp パッドを **短く** 押すと、アルペジオ・エディットモードから抜けます。

アルペジオ・エディットモードに入ると、ディスプレイに以下の内容が常に表示されます：



i ! アルペジエーター・プレイモード (アルペジエーター自体のオン/オフ) とアルペジエーター・エディットモード (アルペジエーターの動作設定モード) とは、多少独立した関係にあります。例えば、アルペジオ・エディットモードに入った時点でアルペジエーターが自動的にスタートするわけではありませんし、アルペジオ・エディットモードから抜けただけではアルペジエーターがオフになるわけでもありません。

4.5.3. アルペジエーターのエディット - メインエンコーダー法

2つのモード、つまりアルペジエーター・プレイとアルペジエーター・エディットが別物であることは、前のセクションで触れました。それを踏まえることで、アルペジエーターが演奏するパターンをエディットを始めることができます。

Shift ボタンを押しながらパッド 1 を押すとアルペジエーターがオンになります。次に、Shift ボタンを押しながらパッド 1 を1秒間長押しすると、アルペジエーター・エディットモードに入ります。

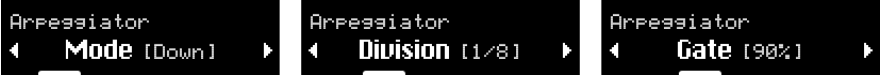
このとき、ディスプレイの表示は下図のようになります：



アルペジエーターのパラメーターは次の通りです：

- **On/Off**：アルペジエーターのオン/オフを切り替えます。
- **Mode**：アルペジエーターが音を発音する順番 (パターン) を選択します。
- **Div**：マスターテンポに対する拍数を設定します。
- **Swing**：シャッフル感 (はねた感じのリズム) を調節します。
- **Gate**：アルペジオ化された各音の長さを調節します。
- **Rate**：同期設定が *Internal* のときのアルペジエーターのスピードを BPM 単位で設定します。
- **Sync**：アルペジエーターのマスターテンポのソースを選択します。MiniLab の内部クロック (*Int*) またはソフトウェアやハードウェアからの外部クロック (*Ext*) のどちらかを選択します。
- **Oct**：アルペジオが展開するオクターブをゼロから3オクターブの範囲で設定します。

各パラメーターのエディットは、メインエンコーダーで行うことでしょう（メインエンコーダー法ですから...）。メインエンコーダーを回すと下図のようにパラメーターが順番に表示されます：



エディットしたいパラメーターが出ましたら、メインエンコーダーをクリックしてその値を変更します：



メインエンコーダーを回して値を変更し、クリックするとそれが確定して再びパラメーター選択メニュー階層に戻ります。

4.5.4. アルペジエーターのエディット - クイックアクセス法

上述のように、メインエンコーダーで各パラメーターをたどっていく方法もありますが、もっと早くエディットする方法もあります。**Shift** ボタンを押しながら**パッド 1** を押してアルペジエーター・エディットモードに入っている状態で、8つのエンコーダーノブでアルペジエーターの各パラメーターに直接アクセスできます。

ディスプレイの表示とノブによる便利な2行レイアウトでエディットが行えます。

ノブ	アルペジエーターの設定
1	On/Off
2	Mode
3	Division
4	Swing
5	Gate
6	Rate
7	Sync
8	Octave Range

どのノブでも回した時点ですぐにそのパラメーターの設定を変更できます。その操作に反応して、ディスプレイには変更した設定値が短時間表示され、その後メニュー表示に戻ります。この方法なら、音を出しながらノブを回して設定をすぐに変更できます。

 ! ノブの機能を元の状態に戻すには、アルペジエーター・エディットモードから抜ける必要があります。

4.5.5. アルペジエーターのパラメーター

ここからはアルペジエーターの各パラメーターを詳しく見ていきます。

4.5.5.1. On/Off



このメニューでノブ 1 を回すことは、**Shift + パッド 1** の操作と同じことで、単純にアルペジエーターのオン/オフを切り替えます。

4.5.5.2. Mode



アルペジオの各音を演奏する順番 (パターン) を、以下のオプションから選択します：

- **Up**：押さえたコードの最低音から最高音に向かって演奏します (上昇)。
- **Down**：押さえたコードの最高音から最低音に向かって演奏します (下降)。
- **Inc**：「インクルーシブ」の略で、上昇と下降を繰り返し、最高音と最低音を連打します。
- **Exc**：「エクスクルーシブ」の略で、上昇と下降を繰り返し、最高音と最低音を連打しません。
- **Rand**：押さえたコードの各音をランダムに演奏します。
- **Order**：キーボードでコードの各音を押さえた順番に演奏します。

i **♪** **Order** はキーボードでコードの各音を押さえた順番で演奏しますので、最も柔軟なパターンと言えます。また、**Rand** はデュラン・デュランの「Rio」のような80年代シンセポップのヒット曲でよく使われたパターンです。

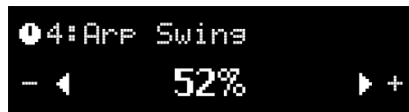
4.5.5.3. Division



このパラメーターでは、アルペジエーターのマスターテンポ（内部/外部クロック）に対して、アルペジオの各音が発音する拍数を設定します。設定値には1/4（4分音符）、1/8（8分音符）、1/16（16分音符）、1/32（32分音符）があり、3連符にも対応しています。設定値の後ろに「T」が表示されているとき（例：1/8T）は、3連符のタイミングになります。

! 設定値が 1/8 の場合、アルペジオの各音は8分音符になります。1/8T のときは8分音符の3連符になります。これは後述の Swing (スウィング) とは異なるものですが、Swing の値を 67% にセットすると8分音符でも3連符の感じになります。

4.5.5.4. Swing



スウィングは完全に均等なリズムではなく「少しはねた感じ」を出すパラメーターです。

例えば Division で 1/8 を選択し、Swing の設定を Off にすると、均等なリズムの8分音符を演奏します。Swing の設定値を上げていくと、偶数番目に発音する8分音符の発音タイミングがその分だけ遅くなっていきます。設定値を 67% にすると、いわゆる「スウィングした」感じになります。設定値が 55-64% の範囲では、ややスウィングした感じになり、楽曲によっては驚くほどグルーヴィに聴こえることがあります。

スウィングは、Division の次の設定値すべてで有効です：1/8、1/16、1/32

4.5.5.5. Gate



ゲートタイムは、アルペジオの各音が発音する時間的な長さを設定するパラメーターで、すべての音に共通して適用されます。設定値が低めの場合はスタッカートのように音が短くなり、設定値を高くすると音を長く発音します。

! ボリューム (アンプ) エンベロープのリリースが長い音色を使用しているときは、Gate の設定を低めにすることでアルペジオの各音がより明瞭に聴こえるようになります。

4.5.5.6. Rate



このパラメーターは、Sync が *Int* のときにのみ有効で、アルペジエーターのスピードを BPM 単位で設定するものです。Sync が *Ext* にセットされているときにこのノブを回すと、「Ext Sync selected」というメッセージがディスプレイに表示されます。

アルペジエーターのスピードは、[タップテンポ \[p.18\]](#)でも設定できます。

4.5.5.7. Sync



設定値は *Int* (インターナル) と *Ext* (エクスターナル) の2つです。

- **Int** : アルペジエーターのスピードは、MiniLab の内部クロックと Rate パラメーターの設定値 (前項参照) で決まります。
- **Ext** : アルペジエーターのスピードは、DAW などのホストアプリケーションで設定したテンポに従います。アルペジエーターがクロック信号を検出しないときは、MiniLab のキーボードを弾いてもアルペジエーターが動作しません。また、DAW とアルペジエーターを同期させるときは、MiniLab の USB ポート経由で DAW と接続されていることを確認し、DAW を再生させる必要があります。

i Int と Ext の使い分けは？ Analog Lab をスタンドアローンモードで使用するときは、MiniLab の内部クロック (Int) を使用することでアルペジエーターのスピードを簡単に変更できます。5ピン MIDI 端子からハードウェアのシンセモジュールをコントロールするときも同様です。一方、Analog Lab やその他のインストールメントを DAW のプラグインとして使用するときは、MiniLab を外部クロック (Ext) にセットすることで DAW のテンポに同期させることができます。

4.5.5.8. Octave



アルペジエーターは、0から3オクターブ上までの範囲でアルペジオ演奏をさせることができます。0 の場合、キーボードで押さえたのと同じオクターブでのみアルペジオ演奏をし、1 にセットしたときはキーボードで押さえたのと同じオクターブで演奏したあとに1オクターブ上で演奏します。以降、設定値を上げるとアルペジオ演奏が展開するオクターブが毎回ごとに1つずつ上で増えていきます。

4.6. Tap Tempo - タップテンポ



タップテンポは、ビート叩くことでアルペジエイターを演奏する MiniLab の内部クロックを設定できる機能です。例えばドラマーがいるバンドや MIDI など同期していないドラムマシンにテンポを合わせたいときに、耳で MiniLab を同期させることができます。

Shift ボタンを押しながらパッド 8 を最低4回タップします。テンポはタップした直近4回の平均値になります。4回以上タップすることで、より正確にテンポを合わせることができます。

4.7. ホールドモード

Hold と書かれているボタンを押すと、最後に弾いた音が次の音を弾くまで、またはホールド機能をオフにするまで長く伸びます。

Hold ボタンを押すとホールドモードがオンになります。このとき、Hold ボタンが点灯し、ディスプレイには **Hold mode ON** のメッセージが表示されます。Hold ボタンをもう一度押すとホールドモードがオフになります。

ホールド機能は、サステインペダルとは異なります。サステインペダルを踏むと、それ以降に弾いた音はペダルを放すまで長く伸びます。ホールド機能では、そのときに同時に弾いた音のみが長く伸びます。例えば、ホールドモードをオンにしてからキーボードで「ド」と「ソ」を弾くと、その2つの音は次の音を弾くまでの間、長く伸びます。次の音を弾くと、それまでの「ド」と「ソ」の音は止まり、あとから弾いた音が長く伸びます。

4.8. Chord Mode - コードモード

MiniLab には、設定したコードをメモリーしてそれをワンフィンガーでトランスポーズさせながら演奏できるコードモードがあります。

コードの情報は MIDI データとして USB-C ポートや5ピンの MIDI アウトから送信されます。どちらの端子から受信するかは、ホストアプリケーションの MIDI 設定で選択できます。

コードモードのオン/オフは、**Shift** ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押して切り替えます。コードモードに入ってからキーボードで1音弾くと、前回メモリーしたコードを発音します。



Chord mode ON

4.8.1. コードを作成する

Shift ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押したままにします。次に MiniLab のキーボードでコードを押さえると、そのコードをメモリーします。コードはすべての構成音を同時に押さえても、1音ずつ足していくこともできます。このとき、ディスプレイには次のようなメッセージが表示されます：



Create a user chord



Creating chord...

コードの入力が終わりましたら、Shift と Hold ボタンを放します。このとき、自動的にコードモードに入ります。入力したコードがメモリーされ、その内容はコードモードから抜けて再度入っても、MiniLab の電源を切っても残ります。上記の操作をすることで、新たなコードがメモリーされます。



！コードの最低音をルートノートにしたいとき（これが最も一般的だと思います）は、コードの入力時に他の構成音よりも先に最低音を弾いてください。

Shift ボタンを押しながら **Hold** ボタンを押すとコードモードから抜けます。

4.8.2. アルペジエーターとコードモード、ホールドモードを併用する

コードモードはアルペジエーターと併用できます。両方がオンのとき、アルペジエーターは **Mode** や **Division** などの各パラメーターの設定に従って、メモリーされているコードをアルペジオ演奏します。さらに、**Hold** をオンにする (コードモードがオンのときは **Hold** ボタンは白とブルーが交互に点滅します) と、キーボードを1音弾くだけでアルペジオ演奏のキーを変更でき、両手をそれ以外のコントロールに使用できて非常に便利です！

 ! このようにホールド機能は色々な使える便利な機能ですが、単独では例えばロングトーンで刻々と変化するようなパッド音色の演奏に便利な機能です。



Hold mode ON

4.9. ヴェガスモード

一定時間操作をしないと、MiniLab はコンピュータのスクリーンセーバーに似た、いわゆる「ヴェガスモード」に入ります。このとき、OLED ディスプレイは暗くなり、パッドはレインボーカラーで順次点灯します。

その状態でキーボードを弾いたり、ノブなどのコントロール類を操作すると、MiniLab は元の状態に戻ります。

 ! MIDI Control Center アプリケーションでは、ヴェガスモードに入るまでの時間や、ヴェガスモードの代わりにスリープモード (ディスプレイと LED が全消灯します) に切り替えることができます。デフォルト設定では、5分以上操作をしない状態が続くとヴェガスモードに入ります。

4.10. ファクトリーリセット

 ! 以下の操作を行うと、すべてのユーザープリセットや MiniLab の各種設定を消去して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。この操作を行う前には、MIDI Control Center でバックアップを取っておくことをお勧めします。

MiniLab を工場出荷時のデフォルト設定に戻す手順は、以下の通りです：

1. MiniLab のリアパネルの USB-C ポートから USB ケーブルを取り外します。
2. **Oct-** と **Oct+** ボタンを押したままにします。
3. 上記のボタンを押したまま、USB-C ポートに USB ケーブルを再び接続し、パッドが点灯するまでボタンを押したままにします。ディスプレイに「Factory Reset」の表示が出てから MiniLab の起動シーケンスが始まります。

5. MINILAB AND ANALOG LAB

このチャプターでは主に MiniLab と、音楽史を彩ってきた数々のキーボードやシンセサウンドのプリセットを内蔵した Analog Lab との統合に関する各種機能をご紹介します。ここでは MiniLab でコントロールできる Analog Lab のパラメーターの基本についてご紹介しますが、これと同じことが Analog Lab のすべてのバージョンにも適用できます。Analog Lab Intro の詳細や、Analog Lab のその他のバージョンにつきましては、それぞれのユーザーマニュアルをご参照ください。

 !フルバージョンの Analog Lab Pro を入手するには、Analog Lab Intro からのアップグレードがお得で便利です。アップグレードはこちらで行えます：www.arturia.com/analoglab-update

5.1. 重要なポイント - すべては流動的なのです

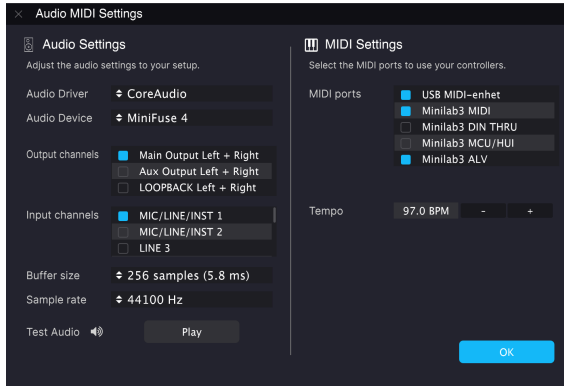
このチャプターでご紹介する内容は、MiniLab で Analog Lab Intro や Analog Lab Pro をすぐに使用できるように設計されたデフォルト設定を前提にしています。この設定は簡単に変更でき、中でも大きなものは MIDI Control Center (MCC) でオリジナルのコントローラーマッピングを作成できることでしょう (具体的な手順は MCC のマニュアルをご覧ください)。また、マクロにアサインされるパラメーターは、プリセットによって異なりますので、マクロノブ 1-4 を操作したときに起こる音色などの変化はプリセットごとに異なります。

さらに MiniLab は、他の Arturia インストゥルメントの MIDI ラーン機能でコントローラーとパラメーターのマッピングを設定する汎用 MIDI コントローラーとしても使用できます。その場合は、インストゥルメントの MIDI Settings タブを開いて「Learn」をクリックし、画面上のパラメーターを選択してから MiniLab のコントロール類を操作することでマッピングできます。

最後になりますが、MiniLab は他の MIDI コントローラーと同様、Arturia 製以外のソフトウェアやプラグインもコントロールできますが、MIDI Control Center でどのコントロール類からどの MIDI メッセージやどの値を送信するかを細かく設定できる点が、MiniLab を使用する大きなメリットです。

5.2. オーディオと MIDI の設定

Analog Lab を開いてから最初にすることは、Analog Lab からのオーディオが正しく出力されるように、そして MiniLab からの MIDI メッセージを受信できるように設定することです。Analog Lab をスタンドアロンモードで使用する場合は、下図の MIDI Device の「MiniLab3 MIDI」または「MiniLab37 MIDI」にチェックを入れるだけで OK です。「MiniLab3 ALV」にチェックを入れる必要は特にありませんが、入れても問題ありません。



MiniLab 3 用のオーディオ MIDI 設定

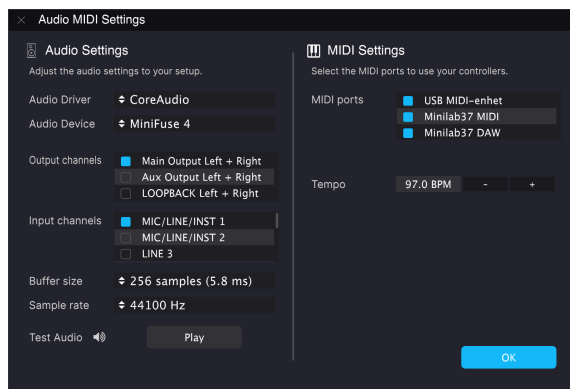
Analog Lab を **スタンドアロンモード** で使用するときは、Analog Lab のメインメニューから Audio MIDI Settings を開きます。

Analog Lab を **DAW のプラグイン** として使用するときは、お使いの DAW の MIDI プリファレンス (またはそれに相当するページ) を開いて、MIDI インプットのリストから MiniLab MIDI を選択し、Analog Lab を入れたトラックを作成して録音待機状態にします。これでお使いの DAW で Analog Lab を演奏したりコントロールすることができるようになります。

上図は、Analog Lab Pro のスタンドアロンモードでの設定画面のスクリーンショットです。オーディオデバイスの設定はお使いのコンピュータやオーディオインターフェイス等に合せて設定してください。ここで重要なのは、MiniLab が Analog Lab や DAW の設定画面に表示する2つ、または3つの MIDI ポート/デバイスです：

- **MiniLab MIDI**：MiniLab の USB-C ポートでの MIDI 送受信のオン/オフを切り替えます。
- **MiniLab DIN Thru**：DAW などのホストアプリケーションから受信した MIDI メッセージを MiniLab の5ピン MIDI アウトからそのまま出力 (スルー) します。この設定は、DAW からハードウェアシンセをコントロールするのに MiniLab を MIDI インターフェイスとして使用したいときに便利です。
- **MiniLab MCU/HUI**：MiniLab を専用ポート経由で Mackie Control Universal (MCU) サーフェスとして使用し、ノートデータやコントロールチェンジなどの MIDI メッセージに干渉しないようにします。
- **MiniLab ALV**：Analog Lab から MiniLab にスクリーンメッセージを送信します。

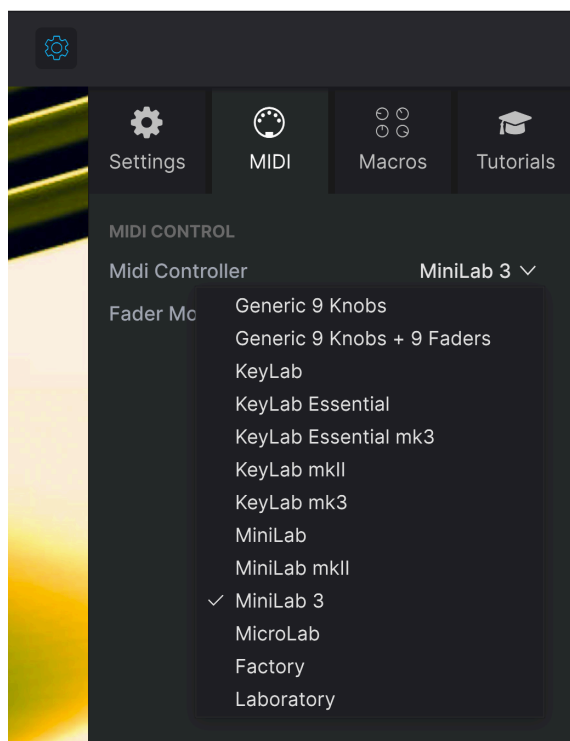
MiniLab MIDI はほぼ常時オンで良いでしょう。MiniLab をチャプター6でご紹介します[サポート DAW \[p.29\]](#) のコントローラーとして使用するときは、**MiniLab MCU/HUI** を必ずオフにしてください。



MiniLab 37 用のオーディオ MIDI 設定

オーディオ MIDI 設定は MiniLab 37 ではわずかに異なり、MIDI ポートの名称が **MiniLab37 MIDI**、**MiniLab37 DAW** となります。

5.2.1. Analog Lab MIDI Settings - Analog Lab の MIDI 設定



Analog Lab の画面右上にあるギアアイコン (プラグインモードにもスタンドアローンモードにもあります) をクリックすると、各種設定を行う Settings セクションが開きます。次に MIDI タブをクリックし、**MIDI Controller** のドロップダウンメニューに *MiniLab 3* が自動検出されていないときは、メニューから MiniLab 3 を選択します。



! メニューの MiniLab 3 は、MiniLab 3 と MiniLab 37 の両方に対応しています。

この操作により、カスタムコントローラー・マッピングのテンプレートを選択することになります。画面最下部のロワーツールバーの **Controls** が有効になると、画面下部に MiniLab のコントロール類に対応したノブやフェーダーが下図のように表示されます：



この状態で **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押して ARTURIA プログラムモードを選択してください。



! MiniLab 37 では、パッドの上段左から 1-4、下段左から 5-8 にナンバリングされています。

5.3. プリセットのブラウジング

MiniLab を使用して Analog Lab で最初に行うことの1つといえば、メインエンコーダー (黒いノブ) でプリセットを閲覧したり選択したりすることでしょう。

メインエンコーダーを回すと、Analog Lab のプリセットブラウザ中央部のサーチ結果表示エリアに表示されているプリセットがスクロールします。メインエンコーダーを押すと、そのプリセットがロードされます。MiniLab のディスプレイにはそのプリセット名と、そのプリセットのタイプが表示されます：



Fusion Lead
Soft Lead



! プリセット名の左にあるチェックマークは、そのプリセットがロードされていることを表示します。

メインエンコーダーを長押しすると、そのときに選択していたプリセットが Liked (お気に入り) プリセットに追加されるか、すでに Liked だったプリセットの場合はそれが解除されます。お気に入りにした (Liked に追加された) プリセットにはハートマークが付きます。

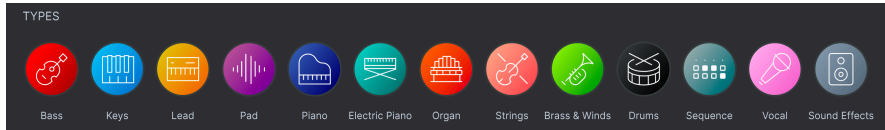
A Bass You Will use



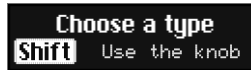
Sub Bass

5.3.1. タイプ別にブラウジングする

Analog Lab のプリセット階層の「ツリー構造」のうち、タイプ (Types) を呼ばれるプリセットカテゴリーを掘り下げていくこともできます。



Shift ボタンを押したままにすると、次のようなメッセージが表示されます：



Shift を押しながらメインエンコーダー (ディスプレイの下にあるノブ) を回すと、楽器のタイプを閲覧できます。メインエンコーダーを押す (この時点でも Shift は押したままです) と、そのタイプが選択されます。タイプを選択したら、Shift ボタンを押さずにメインエンコーダーを回して、そのタイプ内のプリセットを閲覧できます。

Note：現時点では、タイプ別の閲覧のみをサポートしています。スタイル (Styles) やキャラクター (Characteristics)、プリセット作成者 (Designers) 別の閲覧には対応しておりません。もちろん、そうした閲覧は Analog Lab 上ではできず、選択したプリセットとそのサブタイプは MiniLab のディスプレイに正しく表示されます。

タイプ選択の階層に戻るには、Shift ボタンを押しながらメインエンコーダーを回して現在選択しているタイプの Back 画面 (通常は最初のアイテムです) までスクロールします：

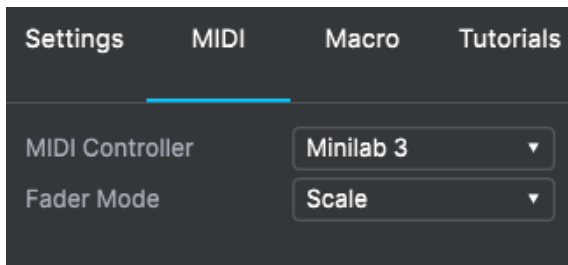


5.3.1.1. タイプやサブタイプ間の移動

- ・ タイプ間の移動：Shift ボタンを押しながらメインエンコーダーを回します。
- ・ タイプの選択：メインエンコーダーを押します。
- ・ タイプ内の全プリセットの表示：タイプを選択してからサブタイプを選択せずに Shift ボタンを放します。するとそのタイプ内の全プリセットが Analog Lab の画面にリスト表示されます。
- ・ サブタイプ間の移動：タイプを選択し、Shift ボタンを押したままメインエンコーダーを回します。この時点でサブタイプを閲覧していることになります。
- ・ サブタイプ内の全プリセット表示：サブタイプを選択します。これでそのサブタイプ内の全プリセットが Analog Lab の画面にリスト表示されます。
- ・ サブタイプからタイプに戻る：サブタイプの先頭にある「Back」まで左へスクロールします。「Back」をクリックする (メインエンコーダーを押す) と、タイプの閲覧ができます。「Back」をクリックすることでサブタイプやタイプの選択解除ができます (サーチバーの内容を消去する便利な方法です)。

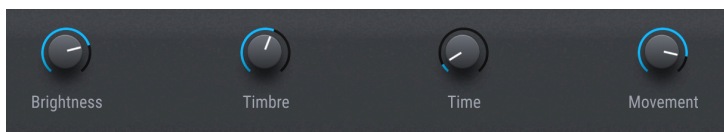
5.4. ノブとフェーダー

MiniLab を ARTURIA モード (Shift + パッド 3) にし、Analog Lab の [MIDI settings \[p.23\]](#) で MIDI コントローラーに *MiniLab* を選択すると、MiniLab のノブとフェーダーは Analog Lab のパラメーターに対応し、ライブやレコーディングで極めてスムーズに音色変化をつけることができます。



画面右上のギアのアイコンをクリックして MIDI コントローラーに *MiniLab* を選択してください

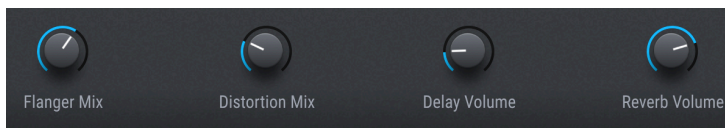
5.4.1. ノブ 1-4



ノブ 1-4 は Arturia インストゥルメントの**マクロ**にアサインされます。マクロには複数のパラメーターをアサインできますので、MiniLab のノブを回すだけで多くの音色変化をつけることができます。フルバージョンの V Collection インストゥルメントをお持ちの場合はさらに、そのインストゥルメントを Analog Lab で開き、インストゥルメントのパラメーターをマクロにアサイン (マッピング) することができます。

ノブ	マクロ	対応する MIDI CC
1	Brightness	74 (フィルター・カットオフリケンシー)
2	Timbre	71 (フィルター・レゾナンス)
3	Time	76 (サウンドコントロール 7)
4	Movement	77 (サウンドコントロール 8)

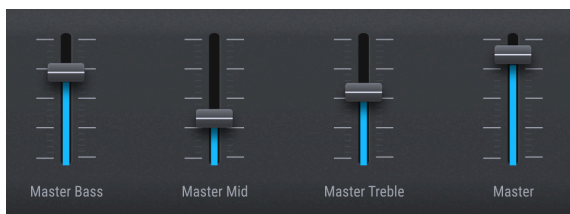
5.4.2. ノブ 5-8



ノブ 5-8 はエフェクトパラメーターにアサインされます。Analog Lab には2つのインサートエフェクトがプリセットごとにあり、それに加えてセンド/リターンのディレイとリバーブがあります。

ノブ	パラメーター	対応する MIDI CC
5	FX A Dry/Wet	93 (コーラスレベル)
6	FX B Dry/Wet	18 (汎用コントローラー)
7	Delay Volume	19 (汎用コントローラー)
8	Reverb Volume	16 (汎用コントローラー)

5.4.3. フェーダー



4本のフェーダーは Analog Lab のマスターアウトプットのマスターボリュームと3バンド EQ にアサインされます。

フェーダー	パラメーター	対応する MIDI CC
1	Bass	82 (汎用コントローラー 3)
2	Midrange	83 (汎用コントローラー 4)
3	Treble	85 (未定義)
4	Master Volume	17 (汎用コントローラー)

5.4.4. パッド



Analog Lab では、MiniLab のパッドからは前のチャプターで紹介しました通り MIDI ノートを送信します。デフォルト設定のノートナンバーは次の通りです：

パッドバンク	1	2	3	4	5	6	7	8
A	36 (C2)	37 (C#2)	38 (D2)	39 (D#2)	40 (E2)	41 (F2)	42 (F#2)	43 (G2)
B	44 (G#2)	45 (A2)	46 (A#2)	47 (B2)	48 (C3)	49 (C#3)	50 (D3)	51 (D#3)



! MiniLab 37 では、パッドの上段左から 1-4、下段左から 5-8 にナンバリングされています。

6. DAW CONTROL

MiniLab は、すべての主要な DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) ソフトウェアのコントロールに対応しています。MiniLab に直接統合できる DAW もあれば、広く普及している Mackie Control Universal (MCU) プロトコル経由でコントロールできる DAW もあります。

DAW ごとに特有の機能はありますが、MiniLab でコントロールできる機能には、トラックの選択、タイムラインのスクロール、トラックボリュームやセンド、パンの調整、プラグインのパラメーター調整のほか、パッドで録音や再生などのトランスポートもあります。

6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW

このセクションでは、MiniLab に完全統合できる DAW でどんなコントロールが行えるかという、一般的な情報をご紹介します。

MiniLab に完全統合できる5種類の DAW で何がコントロールできるのかの詳細につきましては、MiniLab に付属のクイックスタートに記載の各 DAW の項目をご覧ください。

MiniLab を DAW コントロールモードにするには、**Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すとディスプレイに「**DAW**」と表示されます。これで以下の対応 DAW を MiniLab からコントロールすることができます：

- Ableton Live
- Apple Logic Pro
- Bitwig Studio
- Image-Line FL Studio
- Reason Studios Reason
- Steinberg Cubase



! 解説：MiniLab からは DAW のループのオン/オフ、停止、再生、録音をコントロールできます。それ以上のコントロールにも今後対応していく予定ですが、同様のことを MIDI Control Center で設定することも可能です。



! パッドで DAW のトランスポートをコントロールする際には、**Shift** ボタンを押しながら操作してください。

DAW コントロールモードに入ると、MiniLab は接続している DAW を自動認識します。お使いの DAW が認識されないときは、DAW の MIDI 設定をチェックしたり、DAW を最新バージョンにアップデートしてください。

それでも MiniLab が DAW を認識しない場合は、お使いの DAW のマニュアルのインストール関係やトラブルシューティングの項目をご覧ください。



! 対応 DAW をコントロールするときは、お使いの DAW の MIDI 設定で *MiniLab MCU* の MIDI ポートを必ずオフにしてください。そうすることで、カスタム DAW モードと MCU プロトコルとのコンフリクトを防ぐことができます。

! ホールドやコードモード、アルペジエーター、トランスポーズなど、MiniLab のその他の機能はもちろん、あらゆる DAW で使用できます。

6.1.1. トランスポートコントロール



Shift ボタンを押しながらパッド 4-8 を押すと DAW のトランスポートをコントロールできます。これは対応 DAW すべてに共通した機能です。

パッド	機能	ディスプレイの表示
4	ループモードのオン/オフ	Loop Mode ON/OFF
5	停止	再生アイコンが左下に表示されます。
6	再生/一時停止	左下から再生アイコンが消えます。
7	録音	左上に録音アイコンが表示されます。
8	タップテンポ	このパッドをタップすると <i>Tap Tempo XX BPM</i> が表示されます (XX は数値)。

上記の機能を実行すると、上の写真のようにそれに対応したパッドがさらに明るく点灯します。

上記の機能に加えて、現在サポートしている5種類の DAW に固有の機能も数多くあります。詳細につきましては、Arturia ウェブサイトの [FAQ セクション](#)をご覧ください。

6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする

MiniLab 3 の発売時点でカスタムスクリプトがない DAW (Steinberg Cubase など) は、Mackie Control Universal (MCU) プロトコルを使用してコントロールすることができます。このプロトコルは、元々は Mackie 社が開発したフィジカルコントローラーで採用していたものです。

MCU の設定は DAW によって異なりますので、詳細はお使いの DAW のマニュアル等をご覧ください。しかし一般的には、次のような手順になるかと思います：

- DAW の MIDI 設定で MIDI 入力ポートの *MiniLab3 MCU* をオンにします。
- お使いの DAW の「コントロールサーフェス」設定がある場合は、そこで Mackie Control を追加して設定します。

6.3. Analog Lab モード



ほぼすべての DAW は、Analog Lab Pro や Minilab に付属の Analog Lab Intro など、サードパーティ製のプラグイン・インストゥルメントを使用できます。つまり、お使いの DAW 上で Analog Lab を MiniLab からコントロールすることができます (DAW 自体のコントロールは同時に行えませんが)。

DAW のトラックに Analog Lab を立ち上げ、そのトラックを選択してから **Shift** ボタンを押しながらパッド 3 を押すと、ディスプレイには「Analog Lab」(お使いの Analog Lab によって「V」か「Intro」が後ろに付きます) が表示されます。この時点で MiniLab は Analog Lab をコントロールするためのモードに入り、[チャプター5 \[p.21\]](#)でご紹介しましたすべての操作が行えるようになります。

7. 規制関連情報

7.1. アメリカ合衆国

警告：本製品を改造しないでください！

Arturia による明示的な承認がない本製品のいかなる改造やその他の変更を行った場合、本製品を使用するユーザーの権利が失効することがあります。

重要：本製品を周辺機器や他の製品に接続する際は、高品質なシールドケーブルのみをご使用ください。本製品に付属のケーブルを必ずご使用ください。また、すべての設置手順に従ってください。

本製品は、FCC 規則パート15の規定に準拠しています。本製品のご使用には、以下の2つの条件、(1) 本製品は有害な干渉を引き起こさないこと、(2) 本製品は、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したあらゆる干渉を受け入れなければならないこと、が適用されます。

注意：本製品は、FCC 規則パート15の規定に基づき、クラス B デジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。これらの規制値は、住宅環境における有害な干渉から適切に保護するために設定されています。本製品は、無線周波数エネルギーを発生、使用し、放射する可能性があります。取扱説明書に従って設置、使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすおそれがあります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しないという保証はありません。本製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（これは本製品の電源をオフにしてからオンにすることで確認できます）、以下の対策のいずれか、または複数の試して干渉を解消することをお勧めします：受信アンテナの位置を変更する、またはアンテナの向きを変える。 本製品と干渉の影響を受けている機器との距離を広げる。 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける。これらの対処法で問題が解決しない場合は、お買い上げの販売店または Arturia までお問い合わせください。

上記の記載は、アメリカ合衆国で販売されている製品にのみ適用されます。

7.2. カナダ

本製品は、カナダの ICES-003 規格に準拠したクラス B デジタル機器です。本製品のご使用には以下の2つの条件、(1) 本製品は干渉を引き起こさないこと、(2) 本製品は、本製品の正常な動作を妨げる可能性のある干渉を含め、あらゆる干渉を受け入れなければならないこと、が適用されます。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement. EUROPE

本製品は、電磁両立性に関する欧州指令 2014/30/EU の要件に準拠しています。

本製品を処分する際は、電気・電子機器廃棄物のリサイクル指定回収場所に持ち込んで処分してください。

本製品は、住宅環境 (クラス B) での使用を目的としたものです。

7.3. オーストラリア

本製品は、電磁両立性 (EMC) を含む、オーストラリア通信メディア庁 (ACMA) の適用される規制要件に準拠しています。本製品は、住宅環境 (クラス B) での使用を目的としています。

8. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（以下「ライセンスシー」）に Analog Lab Intro ソフトウェア（以下「ソフトウェア」）のコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下「アートリア」）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 ライセンスシーは、ソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 ライセンスシーは、ソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、**違法**となります。ライセンスシーは、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。ライセンスシーは、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 ライセンシーは、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) ライセンシーは、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) ライセンシーが本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびライセンシーが有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス 本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却（製品のアクティベーションなど）は、権利譲渡後ではありません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、ライセンシーが負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はライセンシーのみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、ライセンシーが、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。ライセンシーがこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、ライセンシーに特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。